

令和6年2月22日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）生成A Iの普及を踏まえた今後の教育の在り方について

生成A Iが急速に社会に普及する中、これからの子供たちに身に付けてもらうべき能力は何なのか、そしてそれを実現するために本県教育のどこを改革すべきなのか、デジタルネイティブに向けた改革を実践し成果を上げて来た、教育長の所見を伺う。

（答）

デジタル技術を始めとする技術革新などの社会的変化が加速度を増している中、持続可能な社会の創り手として、子供たちが、予測困難な未来社会においても自分の夢を描き、具現化していくために必要な資質・能力を身に付けていくことが重要であると考えております。

このため、具体的な資質・能力といたしまして、

- ・ これまでの社会の枠組みにとらわれず、直面する問題の核心を把握し、自ら問いを立ててその解決を目指し、様々な知識や情報を組み合わせて新たな価値を創造する力、
- ・ 進歩し続けるデジタル技術に適応し活用できるデジタルリテラシー、
- ・ データとA Iを融合的に活用できる力の基盤となる理数分野の素養などが必要であると考えています。

教育委員会におきましては、これまで、県立高等学校のデジタル活用推進担当教員を対象として、デジタルリテラシーやデジタル情報に対する批判的態度を身に付けるための研修を実施してまいりました。

また、高等学校の授業におきましては、生徒に生成A Iの仕組みやリスクなどを理解させることや、総合的な探究の時間におきまして、生徒自らが生成A Iについて研究することに取り組んでいる学校もございます。

加えて、教育委員会事務局におきましても、例えば、県立学校の教職員の生成A Iに関する理解の促進や業務改善に向けた生成A Iの導入の検討など、あらゆる場面での生成A Iの活用の可能性につきまして、積極的に研究を進めているところでございます。

教育委員会といたしましては、生成A Iなどのデジタル技術の普及を踏まえ、今後も、児童生徒に必要な資質・能力を育成するとともに、児童生徒が

その力を活用することにより、探究的な学びが一層充実するよう全力で取り組んでまいります。